

「デジタル時代にこそ知っておきたい

パーシャルデンチャー7つの構成要素」



大澤 浩史

近年、歯科治療において、多岐にわたるデジタル技術が進化し普及していることは誰もが知るところである。当初はラボスキャナーの出現によりジルコニアの台頭、続いて CAD/CAM 冠の保険導入が実現し、最近では歯科医院による IOS（口腔内スキャナー）の導入等、デジタルは日々進化を遂げている。

しかし、パーシャルデンチャーにおいてはクラウンやブリッジと比較してもメタルフレームをはじめとする構成要素が多いため、デジタル化は非常に困難であると思われる。パーシャルデンチャー製作の完全デジタル化はまだまだ先がみえない状況ではあるものの、デジタル技術は日々進化していることである。しかし、ツールや材料が異なるとしても、「パーシャルデンチャーの基本概念」はアナログ時のものと何も変わらないと考える。

そこで今回、機能するパーシャルデンチャーを目指して基本概念と必要不可欠な7つの構成要素について考察していきたい。

【略歴】

- 1997年 香川県歯科技術専門学校 技工科（現 香川県歯科医療専門学校）卒業
- 2000年 香川県歯科技術専門学校 技工科 非常勤講師
- 2006年 歯科技工 二葉商会 開業
- 2016年 K.S.I. Basic Course 受講
- 2017年 K.S.I. Advanced Course 受講
- 2022年 咬合・補綴治療計画セミナー受講
- 2022年 二葉商会株式会社に組織変更